

# 工夫して、指導していきましょう。

石井康雄（前船橋市立金杉台小学校 校長）

Q

2年生「たし算とひき算のひっ算（2）」では、どのようにして計算技能の定着をはかったらよいのでしょうか？

A

この単元の導入にあたっては、「たし算とひき算のひっ算（1）」との異同弁別が必要です。「たし算とひき算のひっ算（1）」では、一の位での繰り上がりや繰り下がりをご指導しました。したがって導入では、子供の思考が繋がるように、P102の段階的な指導をしていきます。そして、十の位にも繰り上がりや繰り下がりがあると考えさせ、興味・関心を引き出す発問をしましょう。この指導が、今後単元全体で見方・考え方を育てる指導につながります。

P103の「たし算」では、はるさんの吹き出しのような見通しを持たせます。そして、十の位でも繰り上がりの計算ができるという予想を立ててから、具体物を使って確かめさせましょう。そして、計算棒を使っても筆算で行っても答えが同じになることを確認して、計算の仕方をまとめていきます。②の問題は、計算の仕方まで発表させるようにしましょう。

P104は一の位にも十の位にも繰り上がりがある筆算です。前時との異同弁別をし、教科書にあるような学習問題を立てさせます。そして、計算の仕方をできる限りノートにかかせるようにしましょう。

P105ではまず、かずさんの吹き出しのように、2つの筆算をさせます。その後、めあてに従った計算の仕方をノートにかかせましょう。このとき、1年生の「3つのかずのけいさん」が既習事項になります。この3つの数の筆算は、子供にとってかなりの難問にです。なぜなら、一の位は3つの数の計算ですが、十の位は繰り上がった数を含めて4つの数の計算になるからです。また、1以外の数が繰り上がるのもここが初めてです。なお、一の位を計算する際に、2年生の「たし算とひき算」で学習した「 $14 + 7$ 」のような暗算が出てきますので、ひとつずつ指導していきましょう。

計算技能の定着には、教科書の「れんしゅう」や「もっとれんしゅう」を使って、計算の仕組みを確認しながら繰り返し練習させます。練習時間の確保には、朝学習や宿題などを使いましょう。家庭学習等では、P103、104のQRコンテンツから、筆算の仕方を確認できるので活用しましょう。

P107からのひき算の筆算では、たし算と同じところ（どの位に繰り下がりがあるのか）を確認しながら指導していきましょう。子供たちの中には、上から下に引けないので、下から上に引くと考える子がいます。このような間違いを見かけたら、なぜそのようにしたのか、どうしてこの考えが正しくないのかを、具体物を使って確認させましょう。ひき算で特に難しいの

は十の位が空位の計算です。これについても、具体物を使って確認させることが大切です。

P111の「大きい数のひっ算」では、2桁と同じように考えればできることを確認させましょう。

子供たちは同じようなところで繰り返すつまずきます。確かめ算を使って自己採点と間違いの直しをさせましょう。友達同士で答え合わせをすることも有効です。さらに、どうしても正解にたどり着かない問題があったときには、教科書の吹き出しや計算棒などで確かめさせながら、自分で克服させる指導をしていきます。児童名簿などで、一人一人の進み具合を把握し、その子に応じた支援をしていきましょう。

子供たちは、筆算の計算が大好きです。そのため、通年で技能の定着を図り、たくさん練習問題をさせましょう。2年生終了時にクラス全員、たし算ひき算の筆算ができることを目標にしましょう。

Q

**2年生「見方・考え方をふかめよう(2)」では、どんなことに気を付けて指導したらよいのでしょうか？**

A

教科書に出ている6題の文章題は、どれも簡単に答えが求められます。ここで大切なことは、P114、115では、れんさんやそらさんのように答えの出し方をいろいろに考えさせること、P116からは、増減分をまとめて考えさせることです。つまり、見方・考え方を広げる指導になります。

P114では、文章の順に従って解決させます。答えが出たところで、文章全体を図に示していきましょう。ここでは、増減する数量(オペレーター)に着目していきますので、「見方・考え方をふかめよう(1)」のテープ図とは異なります。教科書のように、増減する数量を矢印で表す図を、提示しながら考えさせましょう。矢印がどの方向を向いているかと、その理由を確認していきます。テープ図と比較させながら、それぞれの意図を指導し、使い分けができるようにさせましょう。さらに出来た図から全体を観察させ、最終的にどうなったのかという見方でとらえ直させると、別の考え方が出てきます。そして、まとめにつなげていくことができます。

P116からは、増減する数量に着目した考え方に絞って指導していきます。増えた分や減った分をまとめて考えるとわかりやすくなり、そのため暗算で答えが求めやすくなります。子供たちには、このようにして計算してもよいことやそのよさを体得させてください。そうすれば、P116のかずさんの吹き出しのように、まとめて考える仕方があることを納得させられるでしょう。そして、教科書のまとめのように、指導していきましょう。

この単元に出てくる、3つのまとめである見方・考え方は、順番どおりに計算してきたこれまでの固定観念を覆し、今後の学習の基礎にもなりますので、発問の仕方を工夫して全員に定着させましょう。普段の学校生活の中で、このような事例があれば、取り上げてください。